

2017 年度秋学期授業評価アンケート集計結果について

2018 年 7 月 20 日

< 設問別 >

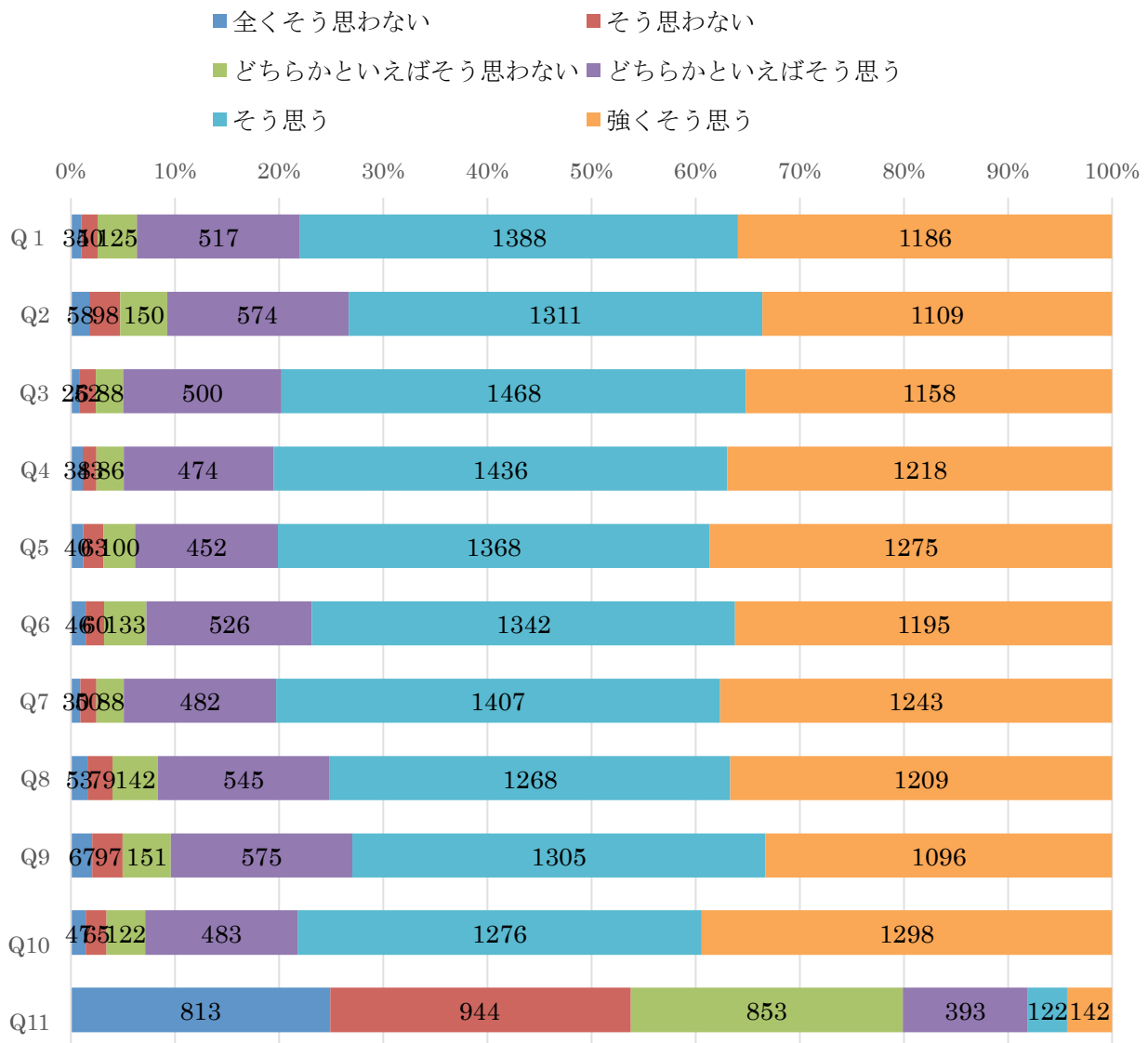
※設問は大きく四つのカテゴリー、< A : 履修者の自己評価 > / < B : シラバスについて > / < C : 担当者と授業について > / < D : 授業の成果について > に分けられ、全部で 10 の設問がある。これに加えて、設問 11 として < E : 授業外学修時間 > について尋ね、最後に、授業改善に向けた自由記述が出来るようになっている。

設問区分		設問
A	Q1	私は、自主的かつ意欲的に取り組んで、この授業を受けた。
B	Q2	私は、この授業を履修する際、何を学修するかを理解するために、シラバスを読んだ。
C	Q3	担当者は、シラバスで授業の目標や計画、授業の評価方法を適切に示していた。
	Q4	授業は、授業の目標達成のために計画的に進められた。
	Q5	授業は担当者の教え方（説明の仕方や話し方）は適切だった。
	Q6	授業の内容はわかりやすかった。
	Q7	授業の進度は適切だった。
	Q8	授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行い、適切な助言を与えたり質問に答えたりしてくれた。
D	Q9	私は、この授業によって学修意欲が喚起された。
	Q10	総合的にみて、この授業は私にとって有益だった。
E	Q11	この授業の授業時間外の学修時間（授業 1 回ごとの平均）※該当するものにマーク ① 30 分未満、② 30 分～1 時間、③ 1～2 時間、④ 2～3 時間、⑤ 3～4 時間、 ⑥ 4 時間以上

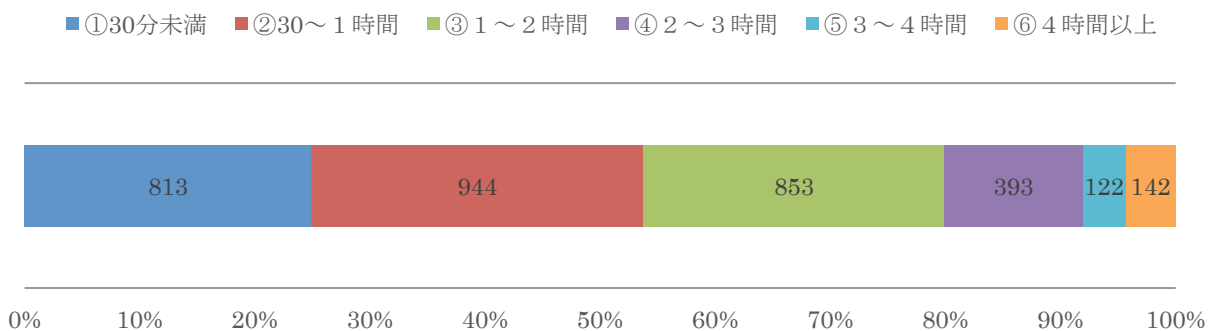
※設問に対する回答（1～10）は、以下の選択肢から選ぶように求められた。

回答内容	マークシートの記入番号
全くそう思わない	①
そう思わない	②
どちらかといえばそう思わない	③
どちらかといえばそう思う	④
そう思う	⑤
強くそう思う	⑥

2017年度秋 全体



Q11 2017年度秋 授業外学修時間（全体）



のべ3220人から有効回答（回収率50%強）を得た。

学部教育課程全体として、ここ数年来特に変化なく、また春学期に比しても、④「どちらかといえばそう思う」から⑥「強くそう思う」の肯定的評価を受けており、総合的には8割～9割程度のプラス評価を受けているといえる。

設問区分ごとのコメント

A. 受講者自身の自己評価について

ここでは①～③の消極的回答は6%程度で、春学期より若干下がっているが昨年度は4%であったことを考えればさらなる意識の高まりが欲しいところである。ただ、授業科目を意欲的に受けたと積極的に自己評価する学生が9割以上となっている結果は喜ぶべき事であろうか。

B. シラバスについて

ここでは①～③の消極的回答は9%で、春学期の14%、昨年度の11.2%よりも下がっており、科目選択の際にシラバスに目を通していない学生が漸減しているとはいえ依然として1割弱ではあるが存在しており、今回の回答者にシラバスを参照している学生が偶々多かった（Q3のシラバス評価が高い）という誤差範囲のようにも考えられるので、読むことの重要性を引き続き説きたい。

C. 担当者と授業について

Q3～Q8の項目では、④～⑥の肯定的評価が9割程度に達しており、学部教育課程全体としておおむねプラスの授業評価を受けていると言える結果となった。

D. 授業の成果について

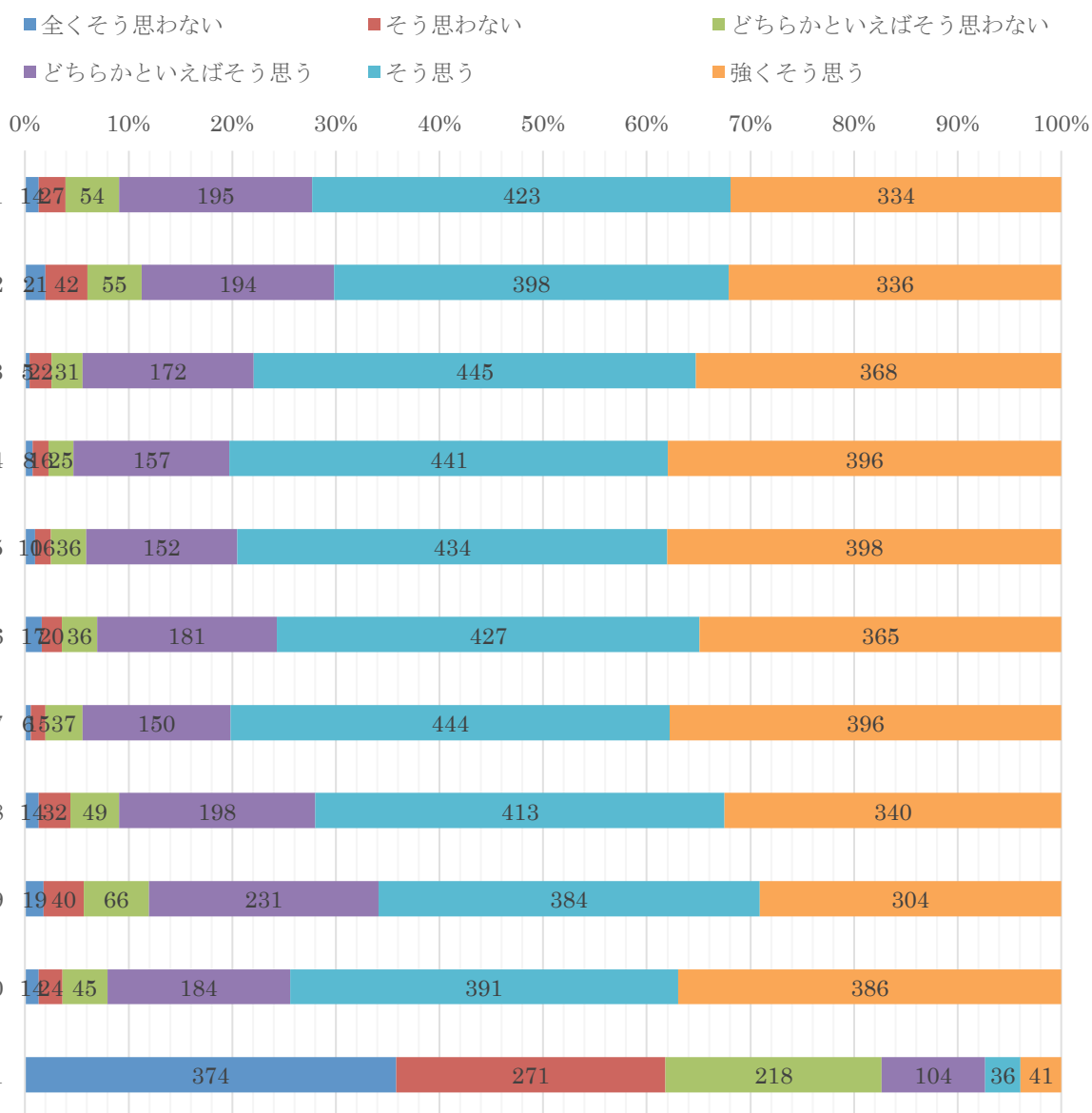
Q9の学修意欲が喚起されなかったと回答した（①～③）学生が9.5%（春学期は12%、昨年度は7%）、Q10の授業が有益でなかったと回答をした（①～③）学生が7%（春学期は8%、昨年度は5%）存在する。これを限りなくゼロに近づけることが必要であるが、春学期同様、学部教育課程全体の授業成果についてかなり肯定的に受け止めている学生が多いことを積極的に評価しておきたい。

E. 授業外学修時間について

1単位科目（45時間の学修時間必要）では週1回の授業に対し授業外学修時間として1時間必要とされ、2単位科目（90時間の学修時間必要）では週1回の授業に対し授業外学修時間として4時間が必要とされている。ここでは学部教育課程全体として集計されている結果が一括して示されているので、それぞれの科目カテゴリー毎でのコメントに譲ることとしたいが、それにしても、春学期同様、また昨年と同様に、①（30分未満）～③（1～2時間）で回答の8割を越えていることは由々しき状況であるといわざるを得ず（春学期よりは若干下がってはいるが）、圧倒的に学修時間不足であることを示している。授業外学修で何をすべきかを指示するのみでなく、これを点検・評価する科目設計の実質化がますます求められることになりそうである。もちろん、学生たちの授業外学修時間を担保する学部教育課程の科目配置も同時に準備されなければならないが、科目単位と学修時間の見直しを含め早急に検討する必要があるだろう。英語学修に限られるが、導入されたe-Learningの積極的活用によって語学学修における授業外学修時間の増加が期待されるところである。

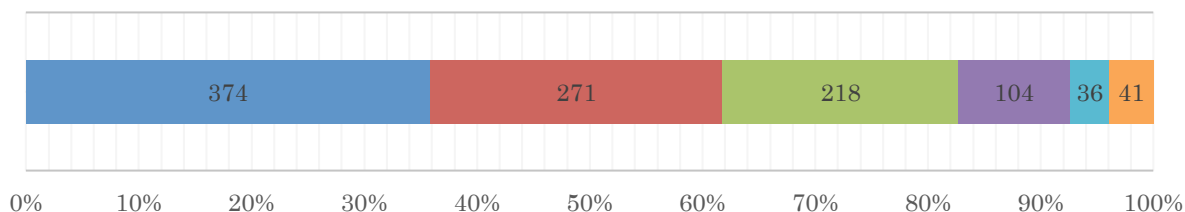
<教養教育科目>

2017年度秋 教養教育科目



Q11 2017年度秋 授業外学修時間（教養）

①30分未満 ②30～1時間 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3～4時間 ⑥4時間以上



のべ1047名が回答した。

教養教育科目は両学科の学生が履修する教育課程にあたるため、科目数および受講者数ともに多い。

教養教育課程として、個々の科目においては、学部教育課程全体平均を上回っている科目もあれば逆もあるが、おおむね全体平均を若干下回っている結果となっている。これは過去においてと同様であり、大きな変動はみられない。総合的には8割以上ありプラス評価を受けているといえそうである。

設問区分ごとのコメント

A. 受講者自身の自己評価について

ここでは①～③の回答は9%で（春学期11%、昨年度は7%）、程度の差はあれ意欲的に授業を受けたと自己評価する学生が9割以上であったとの結果となった。昨年度の秋学期と比べると若干増えているのが気になるが、春学期よりは下がり1割未満に留まっている。

B. シラバスについて

ここでは①～③の回答は11%（春学期19%、昨年度15%）であり、上下動を繰り返しているが、シラバスを読んでいる学生が若干増えている結果にはなっている。シラバスの存在は周知徹底されているはずであるが、科目選択の際にシラバスに目を通さない学生が1割強存在することは常に問題であり、科目選択のミスマッチを起こさないために、読むことの重要性を引き続き説くことが必要である。

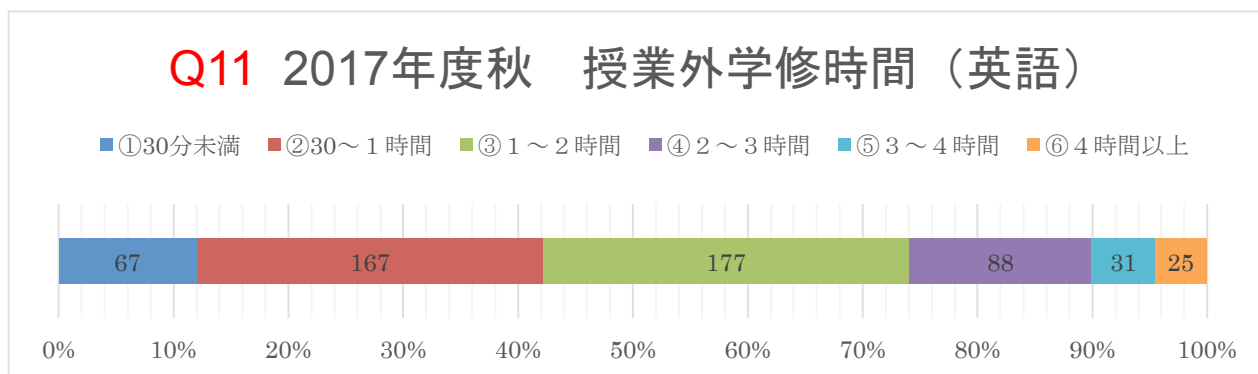
C. 担当者と授業について

この項目では、④～⑥の肯定的評価で9割を超えており、教養教育課程の各科目に関してはおおむね肯定的な授業評価を受けているとの結果となった。

D. 授業の成果について

Q9の学修意欲が喚起されなかった学生が12%（春学期20%、昨年度10%）存在するが、これは春学期に比して8%下がっている。Q10の授業が有益ではなかったと回答をした学生が8%（昨年度と同）であり、Q10の設問に対して肯定的な回答をした学生が9割以上いることを鑑みれば、秋学期においても、教養教育科目の授業成果をかなり肯定的に受け止めている学生が多いととらえて良いと考えられます。シラバスをしっかりと読んだ上で受講した結果であることを願いたい。

E. 授業外学修時間について



週 1 回の授業に際し 4 時間の授業外学修が必要となる 2 単位科目が多い教養教育科目での今回の結果、4 時間以上と回答した学生は 4 %（春学期も 4 %で、全体でも 4 %）であり、4 時間以上学修する学生はある一定のみ存在していることがわかる。問題は、教養教育科目の授業外学修時間が全体に比べ少ない事を示していることであり、学修時間 1 時間未満が 6 割を超えてしまっている。圧倒的に学修時間不足であることを示している。

上に示したのは、英語科目の授業外学修時間の回答である。1 時間以上と答えている学生の方が過半数を超えている。おそらく、e-Learning の授業への積極的導入によって英語の授業外学修時間はさらに増えることが予想される。むしろ語学科目を 2 単位化すべきではないかとの議論も出そうである。とまれ、本来講義科目の学修時間でこなされるべき課題が出されていないことが問題なのか、履修学生の主体的取り組みが不足しているのか難しいところだが、少なくとも、課題として、授業外学修で何をすべきかを明確に指示（シラバスで明記済？）する必要があるのかもしれない。毎度記すように、科目設計の実質化がますます求められ、また同時に、学生たちの授業外学修時間を担保する教育課程全体における科目配置も同時に検討されなければならないだろう。

（文責：教育支援部長 山川）